

平成30年度第5回秦野市行財政調査会（行財政経営専門部会）

1 開催日時	平成30年11月12日（月）午前9時30分から午後0時15分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎4階 議会第一会議室	
3 出席者	委 員	斎藤部会長、茅野部会長職務代理者、坂野部会長職務代理者、足立委員、横溝委員
	事 務 局	行政経営課長、同課課長代理、同課担当
	関係課等 職員	政策部長、企画課長、財政課長、企画課課長代理（企画政策担当）、同課担当 観光課長、観光課課長代理（観光振興担当）、同課担当
4 議 題	(1) 地方創生推進交付金の効果検証について (2) 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）に係る平成29年度評価について (3) その他	
5 配付資料	資料1－1 地方創生推進交付金の効果検証 参考資料1－2 都心から1時間で出会えるスローライフ体験 参考資料1－3 秦野SAスマートIC周辺を拠点とした周遊ルートの検討状況 参考資料1－4 土産品等の試作品開発状況 参考資料1－5 観光プラットフォーム支援システムの試作状況 参考資料1－6 主要観光地等観光客数 資料2－1 地方創生推進交付金の効果検証 参考資料2－2 日本有数のカルシウム含有量を誇る「鶴巻温泉」と表丹沢（大山）の広域連携によるまちづくり・経済活性化支援事業 参考資料2－3 対象地域の位置関係図 参考資料2－4 バス実証運行結果 参考資料2－5 観光客受入イベントの実施結果 参考資料2－6 実証運行のための効果的なPRの展開 資料3 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）平成29年（2017）年度評価報告書	

6 会議概要

【事務局】 一 配付資料の確認 一

【部会長】 皆さん、おはようございます。これから平成30年度の第5回会議を開催いたします。本日は2件あります。まず、交付金の関係ですが、これは国からの指導により、より掘り下げて検証を行っていきます。そして、その後、前回の議論の続きをを行い、総合戦略の評価のまとめも行います。それでは、よろしくお願ひいたします。

議事に入る前に、議事録の署名委員を私の他に1名指名させていただきたいと思います。名簿順で、今回は坂野委員にお願いいたします。

それでは、担当課の方から議事(1)の資料の説明をお願いいたします。

【観光課】 一 資料1－1から資料1－6に基づき説明 一

【部会長】 ただいまの説明で意見等があれば御発言をお願いいたします。

【委員】 最近の登山ブームを肌で感じていますが、改めて、表丹沢の状況が極めて厳しいと思っています。資料1－6のとおり、平成29年の観光入込客数261万人に対し、丹沢表尾根への観光客が約3分の1を占めています。ヤビツは平成26年から平成27年にかけて約3倍、大倉は平成26年に対して平成28年が約半数、戸川公園は平成26年の50万人台に対し27年が70万人台、それぞれ、何か測定のミスがあるのか、特別の事情があるのではないかと思うような数字になっています。これらについては、どのように分析されていますか。

【観光課】 ヤビツでは、バスの本数に80人を乗じた数字で計算しています。大倉につきましては、戸川公園から、大倉、鍋割方面に行かれる方の実数をカウントしています。戸川公園につきましては、ヤビツ同様、バス停でのバスの本数に80人を乗じた数字で計算しています。これらは、平成27年から平成29年で同様に行っています。

【委員】 観光統計は非常に難しいです。箱根町あたりでは、金時山の山頂に電光カウンターを設けています。奥多摩町では、登山口に押すカウンターがあります。登山客の入込客数をカウントするのは非常に難しいので工夫が必要です。秦野は全体観光客数に占める割合が非常に多いので、この基礎数値をしっかりと把握することが重要です。

ここからは意見になります。現在は、第何次の登山ブームになっています。特に山ガールの進出が目立ち、今回のブームを支えていると感じています。北アルプスの山小屋でバイオトイレがありまして、そこには有料のオムツがありました。昔と状況

が全然違い、今は山であってもトイレ以外で用を足さない状況です。何が言いたいかというと、女性が山の計画を立てるときに、2時間置きにトイレがあるか否かを確認するそうです。

山岳会でも、バイオトイレを推進するべきか、それともトイレは設置しないかということで意見が割れているそうです。トイレを設置しない派の意見としては、山頂にトイレテントを設置して、そこに便座風の腰掛を用意しておいて、用を足して、排泄物は自分で持ち返り、下山したところで、ポストみたいなものがあって、そこに捨てるというような議論までされています。

そういうことを考えますと、ヤビツ峠には古いですがトイレがあります。塔ノ岳までの表尾根と、大倉から塔ノ岳までのトイレの設置状況はどのようですか。

【観光課】 秦野市域側に県が設置した環境配慮型トイレが鍋割と見晴にあります。それと、市で管理しているトイレが三ノ塔にもあります。山小屋で管理しているトイレを合わせますと、5つ（鍋割、花立、尊仏、鳥尾、三ノ塔）になります。

【委員】 わかりました。別の話になりますが、バスの始発が遅いと思います。朝7時台からバスが出ていて、臨時便も出ていますが、もっと早い時間帯でバスを出してもらいたいです。始発のバスの時間に合わせて、8時ぐらいから山を上り始めることになるので、それでは遅いという人は日の出に合わせてマイカーで行くようになります。ところがヤビツは駐車場が少ないので、林道等で路上駐車が目立ちます。この辺は考えた方がよいと思います。

本当に観光入込客を増加させたいと思うなら、登山口に臨時テントと案内人を置いて、案内をするようなことがあっても良いと思います。そこで、山用品、水、弁当を置けば、かなりお金が落ちると思います。昔は渋沢駅降りて、水を汲むところがありました、今はトイレで汲んでくださいと言われてしまいます。また、朝御飯のおにぎりをどうしようか、山を登る前に朝御飯を食べたいという人もいます。

それから、下りてきたときの楽しみは、温泉入って、どこで食事をするかです。北アルプスでは、山から下りてくると、ずらっと温泉ガイドが立っていて、割引券なども豊富にあります。ちょっと、記憶にありませんが、ヤビツ峠に弘法の里湯や富士見の湯のパンフレット等は置いてありますか。

【観光課】 ヤビツは、土日のみ営業している売店があるだけです。

【委員】 例えば、そういう所にスタンドを置いて、パンフレットとか割引券を置いて、バスルートを案内するだけでも誘客できると思います。でも、秦野には今そういうシ

ステムがないので、駅まで来てしまします。それで駅までに来てしまうと、1時間半で帰宅できるので、まっすぐ帰ろうという人がかなりいます。

この前、蓑毛に下りましたが、やはり何もありませんでした。せめて、バス停のところに何か案内があれば、違うと思います。確か、バスが富士見の湯経由で運行していますが、それもバス停でその情報が分かれれば、ちょっと寄って行くかということになりますが、何もなままバスに乗るので、通り越してしまいます。これが、長野、山梨ならば時間が掛かるので、どこかに寄って行きますが、秦野は交通至便が良いために、何か仕掛けがないと、そのまま帰宅してしまうことになります。

観光客一人当たりの消費額が527円はちょっと少ないと。ちょっとした仕掛けがあれば、3000円でも5000円でも消費できると思います。昔と違って、山を登る人も裕福ですから、お金を落とすところを探しています。秦野は、その落とすところをわざわざ隠しているような感じです。

【部会長】 総括して、担当課の意見はどうでしょうか。

【観光課】 観光入込客数については、来年度予算の中でも登山口に何人も人を置いて、より実数に近い形で見直しを図ろうと考えています。

トイレについては、県の水源環境税を活用して、環境型トイレを設置していく、県と市で合わせると7つあります。今後は、大倉高原山の家にも設置していきたいと考えています。ヤビツのトイレは平成23年に改修していて、ヤビツから三ノ塔まで約2時間で、ぎりぎり女性も大丈夫かなと思います。

バスの始発の関係は、日ごろ、バス事業者と意見交換する関係を持っていますので、その中で要望することも検討していきます。

総括的に、秦野の表丹沢はブランドであると思いますので、先ほどの御意見を踏まえて、秦野の店の紹介、鶴巻温泉の魅力などを活用しながら、観光客数の増加と経済の活性化を図っていきたいと考えます。

【部会長】 先ほどの委員の御意見は、実際に山登りをしている方の率直な意見であり、指摘です。交付金事業のタイトルにあるような、「都心から1時間で出会えるスローライフ体験」とするならば、先ほどの御意見を、一つ一つ潰していくことが重要だと思います。山のトイレについては、具体的にきめ細かい情報提供が必要だと思います。

あと、資料1-6の観光統計については、やはり素人が見ても、ちょっとおかしい数字が出ているので、先ほど、担当課が言わされたように、実数に近い形になるように対応してほしいと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

【委員】 資料1－4に記載のある、観光客一人当たりの消費額527円ですが、計算の根拠がどうか気になります。例えば、戸川公園のバーベキューとか、ブルーベリー狩りなどの観光農園の費用はカウントされていないのでしょうか。料金を払って、施設を使用するような場所がいくつかあると思いますが、それらを入れても1人平均527円なのでしょうか。

【観光課】 戸川公園には売店がありますけど、そんなにお金を落とす場所がありません。委員のおっしゃるとおり、平均消費額には全てが網羅されているわけではありません。次の消費額は、県の方の統計の取り方が変更となるので、若干、秦野も上がると思います。今の計算式ですと、宿泊客が少ないと、平均消費額が少なくなります。

【委員】 そうなると、秦野の観光客は日帰りが9割ということですから、今の算出方式は不適切なような感じがします。

資料1－3の周遊ルートごとに、お金の落とし方がイメージできるような組み立てを考えないと、具体的な対策につながらないと感じます。

【委員】 私の信金で、大倉で午前中かけて、本日はいくら使いましたかというアンケートを行っていますが、やはり500円台でした。ですから、登山客に限って言えば、その数字はある程度正確であると思います。また、その500円の中身も、ほとんどバス代でした。ですから、委員が言われたとおり、食べ物と水を持ってきて、山に登って、バスを使って帰るだけです。

【委員】 戸川公園のバーベキューでも、材料は自宅から持ってきます。ですから、ただ場所を貸しているだけです。その辺はPRの工夫が必要です。それから、資料1－4の「はだのじばさんず」が54万人とありますが、市内の買い物客との区分けはできているのでしょうか。

【観光課】 市外とは区別していません。

【委員】 そういう意味では観光客ではありませんよね。12月にある水無瀬マラソンでも、バスが渋沢駅に運んでいくだけですから、ほとんど秦野市内にお金が落ちないで帰宅してしまいます。例えば、完走証を駅周辺の商店で提示すれば、何か割引があるとかの工夫をすれば良いのですが、何かやっても、それが単発で終わっています。ですから、その当たりの連携が下手です。せっかく、秦野に来た方にどうやってお金

を落としてもらうかは、広報だったり、観光協会だったり、府内外の連携が重要だと思います。

あと、土日の観光客が来るシーズンでは、駅の観光協会の事務所はもう少し早く開けないといけません。人のやりくりの問題はあると思いますが、その辺の一歩前に出した姿勢が大事であると思います。

【観光課】 府内外の連携については、出来る限り工夫してまいります。また、駅の観光協会の事務所の件については、そのような御意見があったとお伝えしたいと思います。いろいろ御意見がありましたように、交通至便が良いところが、かえって弱みになっていることもありますので、弱みを打ち消すような工夫もしていきたいと思います。

【委員】 昨年、名水の関係を私の部会で扱い、水を使った商品開発でも横の連携が重要であるとの意見が出ていました。資料1－4で示された商品開発でも11品目中、名水と謳っているのは最初のお酒の商品だけです。やはり、シティプロモーションの戦略と一体となって取り組んでいくことが大事ではないでしょうか。

【観光課】 商品開発のワーキンググループで商店の方に集まってもらって開発していますが、市の方から名水を絡めて欲しいとかのお願いはしていました。やはり、名水は秦野の資源ですので、今後の参考とさせていただきます。

【部会長】 やはり、各課で独自に進めるのではなく、横の連携が大事ですね。是非、名水を生かす方法を考えていただきたいと思います。

他になければ、この件はこれで終了します。この計画は非常に良いもので、周遊ルートのプランニングも非常に魅力的だと思いますが、各委員からの御意見を聞いていて、観光客がこの地域に来て、何を望んでいるのか、どんなニーズがあるのかなど、行動パターンを詳細に把握して対応しないと単なるルートを描いただけで終わってしまうと思います。

ですから、観光客のニーズと行動パターンをきめ細かく把握していただくのがまず1点、それから府内連携、或いは外部の関係機関との連携を具体的にどう対応していくのか。具体的な形を見せていただきたいと思います。

まずは直ぐ帰さない工夫ですね。500円のバス代で終わりではなくて、もっと秦野には魅力があるですから、情報提供などきめ細かい対応を行えば、この交付金事業を更に生かせると思います。検討で終わるのではなく、具体的な対応をお願いしたいと思います。

他に意見等はないでしょうか。

【委員】 最後に1点だけあります。商品開発で地場産を取り入れるのは当然だと思いますが、都内から来たお客さんに、別に秦野のピーナッツやお茶に限る必要はなくて、例えば、寒川の豚漬けでも良いし、湘南のしらすでも良いと思います。どうせ、東京や横浜から来ているお客さんですからね。ですから、地場産品にこだわらず、お金を落とさせる工夫が必要であると思います。せっかく、湘南ですからね。

【部会長】 是非、参考にしてください。他になければ、5分休憩して、次の案件に行きたいと思います。

— 休憩 —

【部会長】 それでは再開します。担当から資料2の説明をお願いします。

【観光課】 — 資料2－1から資料2－6に基づき説明 —

【部会長】 ただいまの説明で意見等があれば御発言をお願いいたします。

【委員】 伊勢原側と鶴巻温泉側の路線が競合するのかという視点で見ると、データからは競合していないように見えます。バス事業者は、この結果をどのように分析し、新たなビジネス路線として、事業の採算性をどう考えているか把握されていますか。

【観光課】 やはり、伊勢原便と取り合うことは良くないということで、鶴巻温泉の魅力を発信して、大山観光客を更に増加させることで事業を実施しています。効果としては、資料2－4のグラフでお示ししていますが、全体の数が増えています。

バス事業者にとって、採算が取れる数なのかという御質問ですが、現在、バス事業者と本格運行に向けて、交渉をしている中で、昨年の実証運行期間（11月から2月）では、採算は取れないという話です。唯一、採算が取れそうな期間が、11月の紅葉期間という判断でした。ですから、今年はより本格運行に近い形で、10月末から12月初旬までの間で実証運行を実施することとなりました。

【委員】 大山は新緑も魅力です。新緑の時期と紅葉の時期の設定も検討してはどうでしょうか。春に運行することによって、秋は紅葉がきれいですよ、逆に秋の運行時には春の新緑がきれいですよ、などの連携したPRが可能です。おそらく、鶴巻から大

山に行く便は無理ですが、大山から鶴巻温泉に来ていただくことは、可能性がありますので、定例化することは大事です。

あと、やはり鶴巻温泉駅での官民一体での観光客の受入体制の工夫をしないと定着は難しいです。せっかくですから、例えば、宮永岳彦記念美術館などにしても、その運行中は、閉館時間をずらすとか、サービスを付加していかないと定着は難しいと思います。

【観光課】 新緑の時期ということですが、当初、昨年度の実証運行期間を検討する際には、ビックデータを用いて、大山登山客がどの期間が多いかなどの調査を行い、紅葉シーズンと年始の時期を含めた期間で実証運行をすることになりました。新緑の時期についても、もう少しデータを集めて、採算が取れるということならば、バス事業者と交渉していく必要があると思います。

受入体制ですが、地元の商店会や自治会の方々にお集まりいただいて、運行時の受入イベントを行いました。美術館については、含めていませんでしたので、そちらも付加価値として加えることを検討したいと思います。また、上り便については、全体の協議会の中で、実施を検討してはどうかという意見もありますので、検討はしています。

【委員】 陣屋さんは積極的に参加されていますか。

【観光課】 受入検討会のメンバーとして参加していました。陣屋さんからも、この期を機会に皆で力を合わせていこうというお言葉をいただいている。陣屋さんでは、温泉入浴とワンドリンクで2500円というサービスを開始されています。

【委員】 この事業は、下社への参拝客と登山客のどちらがターゲットですか。

【観光課】 特にターゲットということではなく、大山に来た方がすべてですが、実際にバスに乗って鶴巻に来てくださった方々は、ほとんど山登りの格好をしていました。

【委員】 そうですよね。参拝した方が温泉に入って帰りたいということは考えられません。やはり、山に登って、汗かいて、温泉に入って、食事して帰るということが多いと思います。もし、ターゲットを絞らないのであれば、1枚のポスターの中で両者を納得させるのは難しいので、キャンペーンを別々に実施するなど工夫が必要であると思います。

東京、横浜方面から来られる方が、鶴巻からの上り便を利用されることを考えられませんので、効果がないのではないかでしょうか。

【観光課】 鶴巻からの上り便については、秦野以西からの方々がターゲットになります。伊勢原からだと、バス乗り場でかなり待ちますので、鶴巻で降りれば、待たずにバスに乗ることができますというコンセプトでした。

【委員】 下社参拝のお客さんに鶴巻に寄っていただくためには、鶴巻に何かおもしろい仕掛けを用意しないと、難しいですよね。

【委員】 大山には先導師が存在していて、入浴サービスを行っている所もあります。鶴巻と大山との差別化をしていく必要があると思います。場合によっては、鶴巻温泉のPRが盛んになると、大山の先導師も更にサービスを付加するということもあり得ます。やはり、鶴巻側の魅力を更に高めていくことが重要だと思います。

【観光課】 こま参道を降りてくると、いくつか旅館があって、食事や入浴サービスがあることは承知していますが、都内の方で、伊勢原から電車で鶴巻温泉まで下りてきて、温泉に入りたいという方々がいます。やはり、温泉というものに付加価値があると思っていまして、沸かし湯と温泉の差別化ではないかと感じています。ちょうど、駅から1分ほどの所に市営温泉がありますので、そこまでにある一軒一軒の商店などがお迎えするような取組みができれば、良いかと思っています。ですから、そういう部分で鶴巻の「温泉」と伊勢原の旅館との差別化を図れればと思っています。

【委員】 市営温泉施設のキャパシティの問題はどうですか。

【観光課】 市営の弘法の里湯は、有料入場者が年間約16万人です。招待券などを含めれば、約18万人です。特に秋のシーズンの土日が多くて800人を超えると、待ちが生じます。よく知っているリピーターの方は、この季節は仕方がないと納得されますが、急いでいる方は足湯で済ませる方もいます。

【委員】 初めて来て、1時間、2時間待ちでは、二度と来ないですよ。ですから、そこは、ネガティブキャンペーンにならないように取り組んだ方がよいと思います。

【部会長】 今年度の実証実験は下りだけですね。どうして、上りは実施しないのですか。

【観光課】 これは、昨年度の実証実験の結果を踏まえて、バス事業者と協議した結果です。上り、下りを実施しますと、バスの運転手が1人では対応できないということで、本格運行に近い形となると下り3便だけという結論になりました。

【部会長】 本格運行は往復実施の予定ですか。

【観光課】 バス事業者との調整になりますが、市としては往路も実施したい考えです。

【部会長】 バス事業者との調整、協議で、対応できないから、下り便だけということのようですね。

ニーズを見ていると、西側からのお客さんが紅葉の時期に伊勢原に行きますと、伊勢原駅のバス乗り場はものすごく混雑しています。鶴巻発で新たなお客さんが見込めるという考え方も必要だと思いますが、混雑を分散させて、西側からのお客さんを鶴巻から大山にあげるということも、大山の魅力、圏域の魅力を高める効果はあると思います。実証実験の結果から、運転手さんの人件費など労働条件から見て、下り便だけというのは、残念に思います。地域の魅力を高めるのであれば、是非往復を考えていきたいと思います。

【観光課】 今年度も往復の前提でスタートしています。昨年度、往復の実験を行っていますので、原価計算などはバス事業者もできています。今年度の実証運行に関しては、市は赤字の補填はしないで、本格運行に近い形で実施しています。赤字補填なしという考えでは、下り3便になりました。上り便については、昨年度のデータで対応することになります。

私どもとしては、往復運行したいことに変わりありませんので、本年度の運行結果なども見て、再度、バス事業者と協議していくことになります。

【部会長】 それでは、往復運行を前提にしながら、事務を進めているということでおろしいですか。

【観光課】 そのとおりです。

【部会長】 アンケート結果を見ますと、今後も利用したいという方がほとんどですね。渋滞の分散と、帰りは温泉という一つのパックになります。バス事業者の都合も

あると思いますが、是非、往復運行の実現を目指して、本格的に進めてほしいと思います。

また、先ほど、委員から話がありましたが、弘法の里湯に行ったが、入ることができなかつた方が怒っているということも耳にします。大山からバスが出ているから、温泉に入れると思って行っているのに、かなりの待ち時間があつたら当然怒りますよね。ですから、何とか待たせない工夫を検討していただきたいと思います。

あと、もう1点は、受入イベントがありますが、地元の盛り上がりがほとんど見えてきません。協議会を設置したのは分かりますが、せっかくのチャンスを生かせていない気もします。これは、行政の責任ではないです。協議会のメンバーに商人中心で集めるだけでなく、ユーザー、つまり地元住民にも入ってもらわないと駄目だと思います。行政主導ではなくて、商業者サイドに任せるわけでもなく、地域全体で力を合わせて取り組むことが必要だと思います。従来の商人中心の体制に新しい血を入れないとマンネリ化しますよね。地元のまちづくりをしていく中で、厳しいかもしれませんのが商業者を消費者が突き上げるような仕掛けも必要です。ぜひ検討をお願いします。

あと、平成30年度はバス停を整備するという予定になっていますが、計画どおりですか。

【観光課】 本格運行するという条件で整備する予定です。

【部会長】 それでは、バス停整備が第一歩ですね。

【観光課】 最終目標は鶴巻温泉駅周辺の活性化であって、バスの運行はひとつの起爆剤に過ぎないと思います。地元商店会や住民の方が盛り上げて一つになっていただくことが大事だと思います。昨年度の実証運行時は、市の職員がチラシを大山まで配りに行っていましたが、今年は地元の商店会の方が順番に行ってています。そういう意味では一步前進してきているので、そういったことも踏まえて検討してまいります。

【部会長】 弘法の里湯の混雑具合はどうですか。

【観光課】 天候によって違いますが、弘法の里湯については、実は秦野駅から弘法山に登って降りて来た方が多く利用しています。1時間当たり100人を超えると、少し待ちが出来てしまいます。

【部会長】 わかりました。その辺は大きな課題ですね。なお、鶴巻のまちづくりでは、先ほど述べたように、地域の方々が主体的に参加していくことが改めて大事だと指摘

しておきます。

他に御意見はありませんか。

【企画課】 今回の外部有識者による効果検証は、2つの交付金事業が地方創生に、「有効であった」「有効とは言えなかった」の2択で判断していただくことになりますので、よろしくお願いします。

【部会長】 皆さん、スローライフ体験事業については、どうでしょうか。我々からの意見を付して、「有効であった」と評価してよろしいですか。

— 異議なし —

【部会長】 2つ目の鶴巻大山のバス運行の件については、どうでしょうか。こちらも「有効であった」が、まだまだ課題がありますので、意見を付して、「有効であった」と評価してよろしいですか。

— 異議なし —

【部会長】 それでは、次に担当課の方から議事(2)の資料の説明をお願いします。

【企画課】 — 資料3の4ページ及び5ページについて説明 —

【部会長】 ただいまの説明で意見等があれば御発言をお願いいたします。

【委員】 大変わかりやすくなつたと思います。

【部会長】 それでは、総括の部分の説明をお願いします。

【企画課】 — 資料3の35ページの説明 —

【部会長】 ただいまの説明で意見等があれば御発言をお願いいたします。

【委員】 2の(3)の「毎年度の指標の計測から見えた課題」という表現がありますが、これはシンプルに言えば、KPIの課題ではなくて、KPIの達成度から見えた事業そのものの課題であると思いますので、表記を「毎年度の達成度から明らかになった

課題」に改めてはどうでしょうか。

【部会長】 そうですね。

【委員】 ここでは触れなくて構いませんが、部局間の連携がますます重要になっていく中で、リーダー的な立場の部署が組織を引っ張っていくという課題もあると思います。

【委員】 2の(2)のところで、「部局間で十分に協議し設定すること」と表記されていますが、その部分に、部局間の連携を向上させるとか、リードするような表現を加えればよいのでしょうかね。

【委員】 次世代育成アカデミーが開講して、4年ぐらい経っていて、若い職員が育っていく中で、上層部の考え方も変わっていかなければなりません。

KPIの設定に当たっても、担当部署が出てきたものを、組織をリードする政策部が「今は時代が違うからもっとこうしなければいけない」とか誘導していかないとダメですよね。

【部会長】 この部分は、もう少し掘り下げて検討する必要がありますよね。もうちょっと言えば、庁内だけで決めてよいのかという議論もあります。外部からのアドバイスも考えたい。連携とはそういう意味もあります。

あと、2(1)の事業の横連携という表現がありますが、どういう意味ですか。

【企画課】 例えば、子育てしやすい環境という施策で括りますと、「保育園の充実」とか「教育施策の向上」などの部局をまたがる施策の成果が連携されて評価されることになりますので、そういう事業の横連携を示しています。

【部会長】 これは、KPIの説明ですよね。課題ではないですよね。

【委員】 ここの部分は、順番を逆にして、KPIは施策全体を代表し、事業の横連携による成果を計測するものであるが、安易に定量的な達成を望む指標が見受けられるので、本来の姿に近づくように努力してほしいというような趣旨にしてどうでしょうか。

【部会長】 そうですね。やはり、KPIは常に進化していくということが大事である

というような趣旨を入れた方がよいですね。

【委員】 やはり、KPIの設定が各部署にとって、ムーブメントな指標にならないと、変化が起きないですよね。担当者に自覚を持たせるというのも大事であると思います。

【部会長】 3の自己評価の質の向上のところで、自己評価が低い事業は別途改善検討シートなどを作成し、その原因究明と改善方法を明確にする必要があると記載されていますので、委員の御意見もこの辺りが該当すると思います。

以上の総括の部分は、最終的に私と事務局の方で調整させていただければと思います。御了承いただければと思います。

—異議なし—

では、次に基本目標1の説明をお願いします。

【企画課】 — 資料3の10ページを説明 —

【部会長】 基本目標1は、「市による自己評価の総括は妥当です」としています。また、コメント欄の表記も事務局の方で整理していますが、いかがでしょうか。

— 異議なし —

【部会長】 では、次に基本目標2の説明をお願いします

【企画課】 — 資料3の18ページを説明 —

【部会長】 基本目標2も、「市による自己評価の総括は妥当です」としています。また、こちらもコメント欄の表記についても事務局の方で整理していますが、いかがでしょうか。

— 異議なし —

【部会長】 では、次に基本目標3の説明をお願いいたします

【企画課】 — 資料3の24ページを説明 —

【部会長】 基本目標3も、「市による自己評価の総括は妥当です」としています。また、こちらもコメント欄の表記についても事務局の方で整理していますが、いかがでしょうか。

【委員】 交付金の減額により遅れている事業は、歩道整備だけでしょうか。

【企画課】 それだけではありませんが、大きく目立つのが歩道整備事業です。

【部会長】 4点目の超高齢社会を見据えたという部分の最後の表現は、「期待します」という表現ではなく、実践に向けて強く求める趣旨に変更してほしいと思います。他になければ、最後の基本目標4の説明をお願いしたいと思います。

— 異議なし —

【企画課】 — 資料3の30ページを説明 —

【部会長】 基本目標4も、「市による自己評価の総括は妥当です」としています。また、こちらもコメント欄の表記についても事務局の方で整理していますが、いかがでしょうか。

【部会長】 4点目のバス路線網の関係は、各地の先進事例という意味合いで、他市の事例を活かすという表現に改めてほしいと思います。他になれば、よろしいですか。

— 異議なし —

【企画課】 今回はこういう形で整理していますが、委員からいただいたコメントや会議での指摘事項などは、全て担当課の方にフィードバックいたしますので、御承知おきください。

【部会長】 わかりました。ただ、各課に渡すだけでなく、ここでの意見に対し、今後の対応などを整理・報告していただければ助かります。よろしくお願ひいたします。その他で、事務局の方から連絡事項があればお願ひします。

【事務局】 — 次のとおり連絡事項を伝達 —

市長への報告 平成30年11月21日（水） 午後2時30分から
第6回会議 平成31年 1月21日（月） 午前9時30分から
第7回会議 平成31年 2月12日（火） 午前9時30分から

【財政課】 情報提供です。今回の外部評価の中で「連携」というキーワードが出ています。財政課では、新年度予算につきまして、「秦野みらいづくり特別枠」を設けまして、通常の予算査定に加えて、各課が単独の目標を設定するのではなくて、類似の仲間を見つけて、連携によって大きな目標を立てるというような取組みを始めます。次回の会議で予算付けの方向などを報告できればしたいと思います。

【部会長】 具体的にどのように予算要求するのですか。

【財政課】 通常の予算要求様式とは別にシートを作成しています。どこかの課がとりまとめ担当となって、別様式を作成することになります。

【委員】 大変良いことだと思います。従来の考え方の部長や課長にしっかりと理解してもらわないと、阻害要因にもなります。変化を期待します。

【部会長】 新たな取組みのようですから、各課に対する財政部門からのフィードバックが重要であると思います。どんな形になるかまだ分かりませんが、大いに期待したいと思います。

他に意見、質問等はございませんか。ないようでしたら、以上をもちまして、本日の会議を閉会といたします。

－ 閉 会 －